

インターンシップ～仕事現場ならではの学びを深める～

本年度も新型コロナウイルス感染症の影響で制限がかかる中でしたが、夏休みの期間を利用して、2年生19名がインターンシップ(就業体験)に参加しました。

地元企業6社の方々が快く受け入れてくださり、日頃の学校での授業内では経験することができない体験的な活動や、専門性に特化した講話など、現場の厳しさと楽しさを丁寧に教えていただき、生徒は「驚き」と「達成感」を味わうことができました。

2年生のこの時期、もう動き出している希望進路の実現に向けて、とても有意義な活動になりました。また、今回お忙しい中受け入れをしていただいた各事業所様には感謝申し上げます。



実習中はほとんどが炎天下の中での柵づくりの作業でした。とてもしんどくて大変だと実感しましたが、暑い中で作業をしている人たちはすごいです。作り終えたときの達成感や仲間と一緒に製作できた嬉しさが、とても良い経験ができました。 三宅 ちな

現場で大きな重機や建物の骨組を見たり、完成した後の説明などを聞いたりして、とてもロマンを感じました。暑い中でしたが、一生懸命に働いている人を見て、現場の人にはすごいと思いました。やっぱり建築に関わる仕事に就きたいと思いました。 小倉 拓也

今年度建築科の生徒がお世話になった企業・団体等

(株)山寅組(京丹後市)
金下建設株式会社(宮津市)
宋徳建設株式会社(宮津市)

(株)ヨネダ(福知山市)
北丹生コン株式会社(与謝野町)
丹後海と星の見える丘公園(宮津市)

※実施した企業・団体等の他に、新型コロナウイルス感染拡大の影響等で、実施できなかった企業・団体等もあります。準備段階から企業・団体等の皆様には大変お世話になりました。ありがとうございます。

木工教室～高校生が小学生に製作サポート～

7月30日(土)、宮津・与謝管内の小学生を対象に木工教室を行いました。5・6年生は「木製のいす」の製作、1～4年生は「コリントゲーム」の製作を親子で行いました。

ここ数年は、新型コロナウイルス感染症の影響で参加人数の制限をしていましたが、今年度はコロナ前の定員数で参加を募り、どちらも定員をオーバーするほどの申込がありました。

高校生も製作のサポートスタッフとして、小学生に道具の使い方や作業のサポートをして、小学生が完成するまで丁寧に教えていました。

作品が完成した小学生は、嬉しそうに笑顔で高校生にお礼の言葉を言っている場面もあり、高校生にとっても小学生にとっても有意義な時間となりました。

人に喜ばれる嬉しさをとても感じられる取組の1つです。中学3年生のみなさんも来年はぜひ、建築科の一員として、小学生に教えてみませんか？



1年生現場見学～一生に一度あるかどうかの貴重な現場を見学～

7月27日(水)、(一社)京都府建設業協会の御協力のもと、建築科1年生が文化庁移転工事と、グループリビング「ことらふ」の施設を見学しました。

利用者を地域で見守るグループリビング「ことらふ」では、設計者と施工者、施主の方、そして実際に住んでおられる方に話を聞かせていただき、生徒たちは生の声を聴くことで、建築の良さ・魅力を身近に感じることができました。

文化庁移転工事は、明治以来初の中央省庁の移転に伴う工事で、5月には岸田総理も現場視察をされるほど一生に一度あるかどうかの貴重な現場を見学することができました。

施工には、大手ゼネコン「清水建設」が携われ、現場責任者の森本様から建設業や仕事のやりがいなど、これから本格的に建築の専門を学ぶ生徒たちに必要な内容を話していただきました。まだ、授業では学んでいないことも多くありましたが、今回の現場見学で見たことをこれからの授業へ活かして、将来このような現場に携わることができる人になれるよう、高校で多くの経験を積んでもらいたいです。



初めて工事現場を間近で見て、こんなに多くの人が作業をされていることを知りました。

森本さんのお話を聞くと、「どうすれば作業しやすいか」、「何が必要なのか」などたくさん考えないといけないと言っておられ、難しい仕事なんだなと思いました。また、『人に伝えること』、『人を成長させること』も難しいと言われて、私もうまく物事を伝えられないので、森本さんのように多くの人と関わって、上手に伝えられるようになりたいです。仕事のやりがいは、「お客さんに喜んでもらえること」ということで、やっぱりどの職業も同じなんだと思いました。

岡本 遥夏

今回の現場見学では、完成した建物と完成していない建物の2つの現場を違う視点で見られ、いろんなことが学べて良かったです。特に授業で習った「梁」が床を支え、「梁」を支えるために「柱」があることなど習ったことが現場で見られました。

森本さんから「お客さんが喜ぶ仕事を心掛けている」と聞いて、将来自分も人に喜んでもらえる建物を造りたいです。また、森本さんが言うように、部活動や高校生活など何事にも一生懸命に取り組み、諦めず、報われるまで努力できる人間に成長したいです。そして、この経験を活かして将来に向けて頑張っていきたいと思います。

藤原 諒耶

体験セミナー～高校への進路選択の第1歩～

8月2日(火)、中学3年生を対象に宮津天橋高校宮津学舎の体験セミナーを行いました。建築科では、「模型製作」・「CAD実習」・「材料実験」の3つの内容から1つを体験してもらいました。また、部活動体験の同じ時間には「建築科体験」として、普通科を体験した人やすでに建築科の体験をした人がもう1度建築科を体験したい人が授業を体験しました。

実際に高校生が授業で行っている実習を中学生にも経験してもらい、「ものづくり」の楽しさを実感してもらいました。この「ものづくり」を通して、今度は建築科へ入学して、地域やこども園・保育所などの地域貢献へと活かしてください。以下は参加した中学生の感想です。



- ・高校生が明るくてとても楽しかったです。建築科へぜひ入りたいと思いました。
- ・教えてもらった高1の先輩がとても優しく、教え方が上手でかっこいいと思った。
- ・体験セミナーでもものづくりの楽しさや関心が持てた。役に立つ話が沢山聞けて参加して良かった。
- ・すぐにアドバイスをくれたり、優しく教えてくれたりして良かった。宮津天橋高校に入学したいです。
- ・建築科でしか分からない魅力を感じました。自分にまあまあ向いていると思った。
- ・実験などが面白く、生徒の人たちも楽しそうで良かった。

※生徒氏名は敬称を省略してあります。

【3年生】 校門アーチ「飛躍」

今年度の校門アーチは、宮津天橋高校1期生ということもあり、テーマを「飛躍」とし、本校の制服エンブレムにデザインされている「昇り龍」をモチーフしました。

宮津学舎と加悦谷学舎をつなぐということで、2匹の龍が互い交差しながら門を包み込む様子を表現しました。また、「ダヴィンチ橋」という釘や接着剤を一切使わない橋を製作し、『宮津学舎と加悦谷学舎』『宮津天橋高校と地域』を繋ぐ架け橋にするという思いを込めました。

今回の製作にあたって正直なところ宮津高校を代表する校門アーチを次へ繋ぐことへのプレッシャーは少なからずありました。生徒たちも1期生だからこそ表現できるものがあると意欲的に製作に取り組んでいました。しかし、コロナ禍での2年間は、先輩たちの作業風景をあまり見ることができませんでした。その中で、いろいろな面で試行錯誤の繰り返し、やろうとしていたことがうまくいかず何度もやり直したり、設置当日になって慌てて修正を加えたりして不安もありました。ただ、設置が完了した校門アーチを見て、「完成できてよかった」という安堵の気持ちが大きかったです。

生徒たちの『やりきった』顔をしていたのがとても印象的でした。大変な思いもたくさんしてきましたが、無事形となり在校生をはじめ地域の方々に披露することができて本当にうれしく思います



歴代の先輩や父・兄が作った様々な校門アーチを入学前からみてきました。今回、製作リーダーの1人として、歴史あるアーチの製作に喜びと不安、見る人に驚きと感動を与えるものを作る責任を感じていました。その責任はやる気にも繋がっていました。たくさんの壁がありましたが、完成後にアーチを見た人たちが「すごい」と言ってくれた時は本当に良かったと感じました。苦い思いもしたけど、僕を大きく成長させてくれたアーチ製作でした。

大江 陽

建築科に入学する理由の1つに「校門アーチを製作したい!」というのがありました。初めに思ったのは本当に大変だと思いました。

アーチを製作して何が得られるのかと思う日々もありましたが、頑張っている人を見て刺激をもらい、最後まで頑張ることができました。アーチを完成できて、少ないながら貢献できたことに本当に嬉しく思います。歴代の先輩方も大変な思いをして製作したアーチが何十年も続いているのは、本当にすごいです。

加賀谷 柚奈

(文化祭)

【1年生】 展示「雷獣」

今年度の建築科1年生は、展示に挑戦しました。「まだ工具を用いた実習をほとんど行っていない段階で作れる物は何か」と、実行委員を中心に知恵を絞って、竹に穴を開けて灯りをつける『竹灯籠』を作ることにしました。黄ブロックに所属する1年4組の元気の良さ、勢いを表す「雷獣」をテーマとし、大きなライオンと雷を表現しました。

宮津市の協力を得て、50本の竹を山に取りに行くところからスタートしました。みんなで協力し、洗った竹の節をすべてくりぬき、ドリルでひとつひとつ穴を開けて製作をしていきました。失敗すると戻れないという緊張感の中で、穴の大きさや間隔を確認しながら、一人一人が責任を持って丁寧に作業を行い、高さ2m横幅4.5mもの巨大な竹灯籠に美しくライオンが浮かび上がらせました。また、装飾として生徒同士で構造を考え、竹の形状を利用して雲の形のライトを作りライオンの周囲を彩りました。

夏休み期間からみんなで製作をみんなで頑張り抜き、今までに無い展示を行うことができ、クラスの絆も深まったと感じています。



【2年生】 展示「どんどこコースター」

今年の学校祭(文化祭)の取組において、HR25では「体験型」をテーマに、建築科だからこそ実現できる「木製ジェットコースター」の製作にチャレンジしました。

過去に例を見ない取組ということで、構想・企画段階から試行錯誤の連続で、文化祭直前まで試走と修正を繰り返しながら当日を迎えました。

「想像以上に当日の運営が大変だった…」と生徒が口にするほどの大盛況で、乗り終わった生徒から「凄い!楽しかった!」や「ありがとう!」などの声が挙がり、製作に携わった生徒たちは「ものづくりの本質」というものを知る良い機会にもなりました。

生徒それぞれが担った「責任」と、最後まで諦めない「忍耐力」を見せてくれた現場に立ち会えたこと、そして、クラス全員で新しいことにチャレンジできたことを大変うれしく思っています。

